

横浜アリーナ観客観察記

志村 良知

八年余り勤務した新横浜のオフィスビルは横浜アリーナと通りを隔てた向い側、私の席は十七階の窓際だったので椅子を回すと眼下に一望だった。

最初に驚いた光景は、昼前からアリーナの建物をぐるりと二列で取り囲む少女たちだった。建物は一辺百五十mあるので六百mを軽く越える。しかも開演は夕方だという。折から驟雨が襲ったが、ところどころ傘が開いただけで列は微動だにせず、じっと激しい雨に打たれている。聞けば人気絶頂の『嵐』なるアイドルグループの公演で、指定席券を持っている筈の彼女らが艱難辛苦に耐えるのは、ペナントや団扇の公式応援グッズを手に入れる為、とのことだった。

住まいも近所なので二〇年来観客観察を続けている。若い男の子のアイドルグループの公演では周囲は十代の少女たちで埋め尽くされる。女性アイドルでは年齢層が広がり男女も半々に近くなる。ビジュアル系ロックバンドでは観客も仮装してくるのが普通で、退社時通用口を出たらそこに数十人のコスプレナース集団がたむろしていたことがあった。サザンや、さだまさしでは年代をまたぐ家族連れが多いし、若い男性演歌歌手の時にはプレゼント受付が設置され貢物を抱えたおば様たちが列を作る。ボクシング世界戦となると客筋もダフ屋もかなり凄みを帯びてくる。真夏のアイスショーでは裏庭に原子炉も冷やせるような大型発電車数台が横付けされ、製氷機に膨大な電力を供給する。

横浜アリーナの行事紹介で欠かせないのは成人式である。日本第二の都市、横浜市の新成人がここ一か所に集まる。新横浜の町を埋める世界最大数万人の振袖娘集団の華やかさは冥途の土産に是非一見をお勧めしたい。

病に倒れた美空ひばりに代わってユーミンが柿落とし公演を行った横浜アリーナ、現在は半年間の大改修中で七月の再開公演は横浜と縁深いデュオの『ゆず』。また華やかな日々が戻ってくるであろう。若者たちの群を掻き分ける散歩が楽しみだ。